

令和4年度 全国学力・学習状況調査 本校の結果について

4月19日に6学年児童を対象に実施しました「令和4年度 全国学力・学習状況調査」について、文部科学省及び北海道教育委員会、旭川市教育委員会の報告書が公表されました。これらの報告書をもとに本校の結果を検証し、その概要と指導の改善策をまとめましたのでご報告いたします。

今回の結果分析で、本校では国語、算数、理科ともに全国平均を上回る十分な学力の定着が認められました。以下、各教科の特に正答率が高かったところを「成果」、他の領域や分野に比べて正答率が低かったところを「課題」としています。

今後は、この調査の結果分析をもとに、家庭・地域の連携をいただきながら、学力向上に向けた指導改善を一層推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

1 国語科に関する結果分析及び指導の改善策

傾向	○国語全体を通じて、条件や指示に合わせて整理した自分の考えを記述で表現する力が高いことが、好成績の基盤となっています。
成果	○文書全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文書を整えることができています。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い自分の文書の良いところを見付けることがよくできています。
課題	▲出題文を読み、登場人物の相互関係について描写を基に捉える設問に対する理解が十分ではありませんでした。
指導・改善	○これまでどおり「読み取る」「話す」「聞く」そして「書く」などの言語活動の充実を図る指導をあらゆる教科・領域で横断的に取り組んでまいります。 ○「文章・資料の読み取り→情報の取り出し→表現・発信」の学習を繰り返し行いながら、意見や感想の発表(説明)をする場面で、具体的に説明できる力を向上させる学習活動を継続的に指導していきます。 ○「身に付けた力」を汎用的に活用できる場面を多く設定し、児童が学んだことの有効性や意味を実感し、自ら学んだことを生かして学習できるような指導を工夫していきます。

2 算数科に関する結果分析及び指導の改善策

傾向	○「基礎・基本的な内容」が多く出題され、その内容について十分に身に付いている児童が多いです。国語科の学力とも通じますが、問題の場面や条件を論理的に把握して思考する力(インプット)、それを整理して解や解法を記述等で表現する力(アウトプット)を身に付けている児童が増えてきていることが分かりました。
成果	○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できています。 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することができています。 ○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解できています。
課題	▲数量が変わっても割合は変わらないことを理解する設問に対する理解が不十分でした。
指導・改善	○日常生活の具体的な場面について、問題を解決するための既習事項(知識・技能)を想起させたり、関連付けたりできるような場面を多く設定し、数学的活動を通じた言語活動の充実を一層図っていきます。 ○計算力などに課題がある児童に対しては、習熟度別指導や少人数指導の中での個別の支援を継続していきます。 ○「チャレンジテスト」や間違えた問題に繰り返し取り組むことで、理解が不十分な部分を克服し、「粘り強く学習する力」「自分の学びを調整する力」を育む指導を進めます。

3 理科に関する結果分析及び指導の改善策

傾向	○理科全体を通して、与えられた条件や資料の分析に基づいた科学的思考や判断を整理し、自分の考えを記述で表現する力が高いことが、好成績の基盤となっています。
成果	○提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができています。 ○自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができています。 ○観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができています。
課題	▲「日光は直進する」ことや「水が水蒸気になって空気中に含まれている」ことへの理解が不十分です。
指導・改善	○児童が理科に対する知的な好奇心や探究心を高められるような授業を工夫し、目的意識をもった観察・実験を行うことで、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養うことができるように改善を図る。 ○自然を愛する心情や主体的に問題を解決しようとする態度の育成を一層図っていく。

4 児童質問に関する結果分析及び指導の改善策

傾向と改善策	<p>○「自分には、よいところがあると思う」に対する肯定的な回答の割合は、全国79.3%に対して本校は100%でした。以前は低い傾向にあった「自己肯定感」ですが、年々増加傾向となり、自分に自信もてる児童が増えてきました。良い傾向と捉え、今後も日常的に児童のよさを認める場面を設定し、多くの児童に自己有用感を自覚させる教育を推進していきます。</p> <p>○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に対する肯定的な回答の割合は、全国87.1%に対して本校は、97.4%でした。学校生活の中で、子どもとのコミュニケーションを図り、信頼関係を大切にしながら、よいところ認め、不十分な部分を支援しながら、今後も個性を伸ばす指導を継続していきます。</p> <p>○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定的な回答の割合は、全国72.5%に対して本校92.1%と全国平均を大きく上回っています。この項目では、子どもが活動で失敗しても温かく見守り励ます学校の支持的風土が結果として現れてきているのではないかと推察されます。今後も継続して児童一人一人のよさを認め、可能性や自尊感情を伸ばす教育活動を実践していきます。</p> <p>○「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」に対する肯定的な回答の割合は、本校100%でした。教科や外部講師の招へいを含め、日常生活のあらゆる場面で「いじめ」について考える機会を設定し、今後も100%の回答が維持できるように指導を進めます。</p> <p>○昨年度の課題であった「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的な答えは、全国79.8%に対して本校97.4%と全国平均を上回りました。新学習指導要領では「キャリア教育の充実」が柱として掲げられています。「キャリアパスポート」の取組や、特別活動及び総合的な学習の時間を中心に「キャリア教育」を意識した教育活動を今後も充実させていきます。</p>
	<p>▲基本的な生活習慣における「朝食を毎日食べている」「毎日同じぐらいの時刻に起きている」の項目については、「している」と回答した児童が、本校における昨年度との比較で10%以上減少しています。「早寝・早起き・朝ごはん」をご家庭と協力しながら推進し、子どもたちの健全育成に努めていきます。</p>

【全国の結果】 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/>

または、検索サイトで [国研 全国学力](#) と検索

【北海道の結果】 北海道教育委員会 <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/gakuryoku04top.html>

または、検索サイトで [道教委](#) と検索、サイト内検索で [令和4年 全国学力](#) と検索

【旭川市の結果】 旭川市のHP <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/d056900.html>

または、検索サイトで [旭川市 全国学力](#) と検索